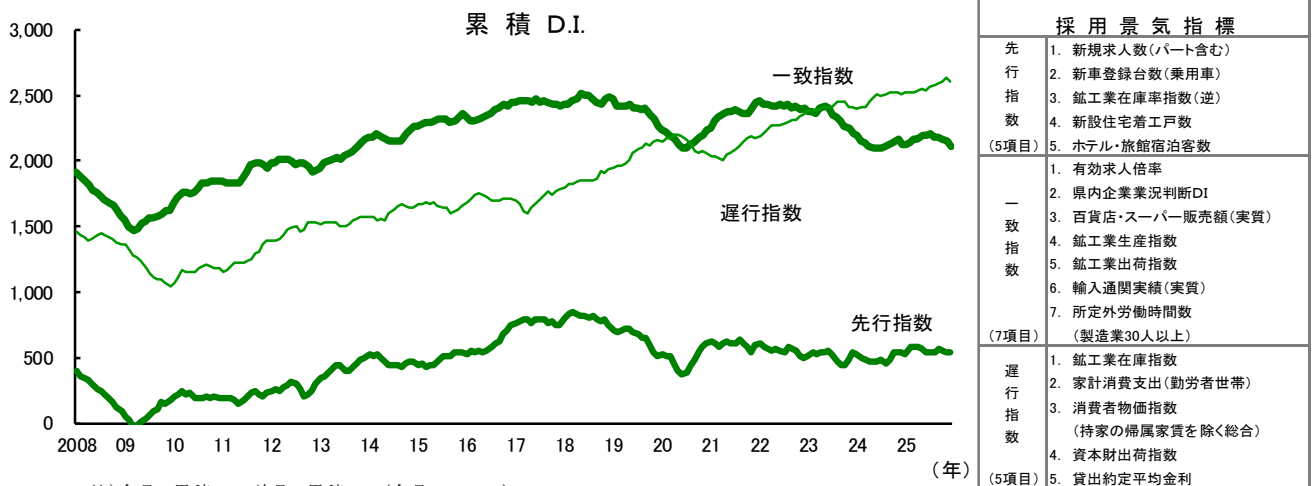


1. 景気動向指数

2025年12月の景気動向一致指数は、有効求人倍率、県内企業業況判断DI、百貨店・スーパー販売額（実質）、鉱工業生産指数、鉱工業出荷指数、輸入通関実績（実質）の6項目がマイナスとなり、全体で14.3%と5カ月連続で50.0%を下回った（7項目のうちマイナス6）。

先行指数は、新規求人数（パート含む）、鉱工業在庫率指数（逆）、新設住宅着工戸数の3項目がマイナスとなり、全体では40.0%と3カ月連続で50.0%を下回った（5項目のうちマイナス3）。

遅行指数は、鉱工業在庫指数、消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）、資本財出荷指数、貸出約定平均金利の4項目がマイナスとなり、全体では20.0%と6カ月ぶりに50.0%を下回った（5項目のうちマイナス4）。



注) 今月の累積DI=前月の累積DI+(今月のDI-50)
 一致指数には1,000、遅行指数には600、先行指数には500をそれぞれ加算してある。
 資料)宮崎県総合政策部統計調査課

景気動向指数：景気に敏感な経済指標を複数取り上げ、それぞれの値を3カ月前の値と比較して増加したものの割合を出したものを。景気の現状を表す一致指数と、一致指数に数カ月先行して動き、景気の先行きを表す先行指数、数カ月遅れて動く遅行指数の3つがある。一致指数が数カ月連続して50%を上回った場合、景気が上昇局面にあることを示す。

景気動向指数の算出方法

$$\text{景気動向指数} = (\text{プラス項目数} + \text{横ばい項目数} \times 0.5) \div (\text{プラス項目数} + \text{横ばい項目数} + \text{マイナス項目数}) \times 100(\%)$$

2. 鉱工業生産

12月の鉱工業生産指数は、94.3で前年同月比3.8%減と前年を下回った。

主要業種別にみると、電子部品・デバイス（同8.3%増）、繊維（同0.5%増）が前年を上回り、化学（同27.9%減）、食料品（同0.5%減）が前年を下回った。

3. 建設関連

① 公共工事

2月の公共工事請負金額は、107億1百万円で前年同月比1.6%増と2カ月連続で前年を上回った。

発注者別にみると、国が同13.5%減、県が同78.6%増、市町村が同19.3%減、その他（独立行政法人等）が全減となった。

② 着工建築物

1月の着工建築物は、棟数は450棟で前年同月比11.2%減、床面積は4万8,927㎡で同22.7%減となった。

内訳をみると、居住用は棟数が同17.0%減、床面積が同13.2%減となり、非居住用は棟数が同4.3%減、床面積が同34.4%減となった。

③ 住宅着工

1月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲のいずれも前年を下回った。県内合計は368戸で前年同月比14.8%減と4カ月連続で前年を下回った。

4. 個人消費関連

① 百貨店・スーパー販売動向

1月の百貨店・スーパー販売額は、62億700万円で前年同月比0.2%減とほぼ前年並みだった。商品別では、衣料品は8億3,800万円で同5.7%減、飲食料品は34億8,000万円で同1.2%増、その他計は18億8,800万円で同0.1%減となった。

② 乗用車新車販売動向

12月の乗用車新車登録台数は、1,370台で前年同月比0.6%増となった。車種別にみると、普通車は863台で同14.5%減、小型車は507台で同43.6%増となった。

5. 消費者物価指数

1月の宮崎市の消費者物価指数は、114.0で前年同月比1.5%増だった。

6. 企業倒産

2月の企業倒産件数（負債額1,000万円以上）は5件（前年同月6件）で前年同月比16.7%減だった。負債総額は3億6,200万円（同5億3,300万円）で3カ月連続で前年を下回った。

7. 雇用情勢

1月の有効求人倍率は、前月から横ばいの1.15倍となった。新規求人数は8,332人で前年同月比4.6%減となった。雇用保険受給者数は、4,482人で同8.6%増となった。

〈今月のトピックス〉～ 2024年の農業産出額

農林水産省によると、宮崎県の2024年の農業産出額は、3,725億円（前年比0.1%増、全国7位）となり、1990年の3,745億円に次ぐ過去2番目となった。畜産部門は2,344億円で県産出額の62.9%を占め、前年から139億円減少（同5.6%減）した。減少の要因は、豚のと畜頭数減少や鶏卵、ブロイラーの価格低下等によるもの。耕種部門は1,343億円で県産出額の36.1%を占め、前年から146億円増加（同12.2%増）した。増加の要因は、コメ、きゅうり、ピーマン、キャベツ等の価格上昇等によるもの。

